

塩素系添加型
清浄剤



塩素系清浄剤を低価格で使用していただく

●フェニックス/アド・ワンのテーマ●

次亜塩素酸Naのデメリットを軽減して、
塩素系薬剤の洗浄力を向上させる

●フェニックス/アド・ワンのコンセプト●



株式会社フェニックス

〒448-0025 愛知県刈谷市幸町2-4-10
TEL 0566-24-0134 FAX 0566-24-7098

■ P/アド・I 混合塩素溶液の作製方法

◆本剤の末端希釈倍率を100～600倍まで調整してください。12%の次亜塩素酸Naにも、そのまま混合していただけます。

〈作製例〉 ～12% 次亜塩素酸Naを使用して、本剤を「500倍希釈溶液」で使用する場合～

混合液を「10㍑」作製する場合、下表を参考にして、期待する末端塩素濃度に合わせて調整してください。

※ 混合後は、軽く攪拌してください。

期待する末端塩素濃度	供給装置の希釈倍率	12%次亜の添加量	P/アド・Iの添加量
約 300ppm	220倍設定	5,600ml	4,400ml
約 500ppm	160倍設定	6,800ml	3,200ml
約 1,000ppm	95倍設定	8,100ml	1,900ml

■ P/アド・I 混合塩素溶液の使用方法

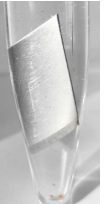
- ◆長時間封入の場合：末端塩素濃度 200～500ppm/アド・ワン希釈倍率500倍(1時間以上の接触)
- ◆シングルパスの場合：末端塩素濃度 500～1,000ppm /アド・ワン希釈倍率500倍(30分以上の接触)
- ◆水洗時間：60分以上(残留塩素指示薬などを用いて残留がないことを確認してください)

※状況に応じて添加濃度・接触時間を設定してください。 ※適時、炭酸カルシウム除去剤を使用してください。

■ P/アド・I 混合塩素溶液の防錆試験

◆試験方法

市販のカッターナイフ刃の油脂を 80%エタノールで除去した後に、アド・ワン混合塩素溶液(塩素濃度500ppm/アド・I (希釈倍率500倍)と、次亜塩素酸Na(塩素濃度500ppm)の2つの溶液を調整し、スピッツに刃の断片1枚と、各溶液5mlを加えて、25℃の恒温槽内で 12 時間観察した。

	15分	1時間	12時間
次亜塩素酸溶液			
アド・ワン溶液			

■ P/アド・I + パージングクリア混合塩素溶液の洗浄力向上試験

◆ 試験方法

監視装置排液側ホースに発生した付着物を検体として、塩素系清浄剤「パージングクリア/70倍希釈」に、アド・ワン(希釈倍率100倍)を混合として、60分間浸漬を行い、除去性を観察した。

	検体	拡大観察
試験前		
浸漬後		

◆ 組 成・製品情報 ◆

【組成】 ● 洗浄助剤 ● 金属封鎖剤 ● pH調整剤 ● 防錆剤 ● 水
 【容量・包装】 9kg(10ℓ)×2本/ケース
 【使用期限】 未開封・冷暗所保管にて、製造より1年間
 【JANコード】 4582553920142

【使用上の注意】

【安全対策】 ● 使用時はゴム手袋と保護メガネ・マスク等の保護具を着用し、眼や皮膚に触れないようにしてください。 ● タンクでの作製量は1週間以内に使用できる程度の量としてください。また、タンク内溶液が、送液されるチューブ及び箇所は、耐性を持つ部材に変更していただくか、定期的に確認してください。 ● ステンレス以外の金属(鉄・真鍮など)には不向きです。また、樹脂・ゴムなどには変化をきたすことがありますので予め確認してください。 ● 原液および塩素混合液がこぼれた箇所は、変色・腐食などの恐れがありますので直ちに拭き取ってください。 ● 本剤は目的以外の用途に使用しないでください。 ● 容器から取り出した溶液は、元の容器に戻さないでください。 ● 塩素混合液は、酸性薬剤などとの混合において、有毒な塩素ガスを発生させるので注意してください。

【応急処置】 ● 眼に入った場合は、こすらずに直ちに流水下で水洗し、コンタクトレンズが容易に外せる場合は外して水洗して医師の処置を受ける。 ● 皮膚に付着した場合は、直ちに多量の水で洗い流す。異常を感じるならば医師の処置を受ける。 ● 飲み込んだ場合は、無理に吐かせないで、口の中を水で洗い、直ちに医師の処置を受ける。本剤は飲食できません。 ● 吸入した際、空気の新鮮な場所に移し安静にして、異常を感じたら医師の処置を受ける。

【保管上の注意】 ● キャップ面を上にして、キャップを閉め、直射日光を避け、子供の手の届かない涼しいところ(0℃以下は避ける)に保管してください。 ● 使用期限は未開封における表示です。できるだけ早くご使用ください。

【廃棄への注意】 ● 使用期限を過ぎた製品は地区条例に基づき、適切に廃棄してください。 ● 本剤はアルカリ性です。排出の際は大量の水で希釈して排出するか、中和したものを多くの水と共に排出してください。実用液は、下水道pH排除基準値を上回ります。適切な処理を施した後に排水してください。

【混合禁忌】 ● 強酸と混触すると、激しく反応しますので厳禁です。